

機械にはさまれ裂傷、救急車呼ばず 「2、3カ月入院で100%治る」はずが

「神奈川シティーユニオン」への労災事故に関する相談は、1991年から今までの10年間に537件。労災手続きを事業主から教えられなかつたり、事故が労働基準監督署に報告されないと「労災隠し」とみられるものが402件(75%)あった。

東京、大阪などの他の民間団体では、統計データはなかったが、毎日新聞の取材に対して7団体が「相談者の約70%以上は労災隠しあつてはいる」と回答した。このうち、「ラバオの会」(横浜市)での相談例は……。

父を失い、出稼ぎに来たバングラデシュ人の男性(38)は、2年前、青森県内の自動車部品工場に就職。昨年3月、男性はプレス機械に左手をはさまれ、親指に裂傷を負った。「救急車を呼んで」と頼んだが、

外国人労働者を支援している民間団体「神奈川シティーユニオン」(川崎市)に寄せられた外国人からの労災事故に関する相談のうち、75%が「労災隠し」とみられるものであることが27日、分かった。他の支援団体でも労災隠しの相談が頻発。日本の制度を知らないことにつけこんだ悪質なケースも自立つ。支援団体は「日本経済に欠かせなくなった外国人労働者の権利保護を真剣に考えるべきだ」と訴えている。

外国人労災隠し 支援団体へ 相談の75%

体の多くは「私たちの実感とかけ離れている」と話している。【大島秀利】

日本人の上司は「労災保険はだめ」と言つて会社関係者の車で病院に運んだ。男性は昨年5月に労基署に労災申請。同8月、補償の給付決定が出たが、会社が労基署に事故報告したのはその直前だった。労基署幹部は「事故から5カ月も経過しており、事実上の労災隠しだ」と語った。

「お金をもらつても指は戻らない。経営者を許せない」と、男性は裁判に訴えようとしたが、結局、今年1月に帰国した。

労働省によると、99年の外国人労働者の労災事故は779件。しかし、支援団

労災に関するご意見、情報をお寄せください。

手紙(〒153-0082)かファックス

(06-6346-8228)、Eメール(o.tokuhou@mbx.mainichi.co.jp)で、毎日新聞特別報道部へ。

なくせ 労災隠し

七五を切れ